

【しなと幸一 瓦版】

市政報告 Vol.92



し 信頼できる医療
な 無くそう介護難民
と 止めよう少子化
幸 幸せ感じる。奈良市
一 一番を目指す。街づくり

「プロフィール」

1957年4月生(59歳)

奈良商工会議所会員・奈良県防衛協会

朋友会会員・奈良西支部交通安全協会

奈良西地区地域安全推進委員

鶴舞地区連合会会長

民主党奈良県第1区総支部幹事長

厚生消防委員会(委員)

【待機児童】

一億総活躍を施策として進めています。若い子供を持つ女性は働きたくとも働くことが出来ない現状が全国的にみられます。奈良市も待機児童対策を進めています。依然として解消には至りません。毎年4月に800人程度が入園していますが実際には希望通りの入園ではないようです。保育所・こども園の総数では充足しているようですが、地域性や時期が合わずに入園できない事態もおこっています。働くことが条件の保育所ですが、生まれた月によって4月以降の入園もあり、随時入所は可能ではあるのですが、

実際の受け入れ実数が少なく、保護者の不安を解消できていません。

また、奈良市は保護者の多様化する保育ニーズに対応できる「こども園」を広く推進しています。「こども園」は保護者が働くか働かないが入園条件ではありません。一方で就学前の幼児が通う幼稚園に対しては、定員に満たない園を統廃合する事になり、地域住民から様々な意見が出ています。待機児童に対する解決の糸口として私は入園予約制度や通園方法を他市などの実態を検証し実現できるかを具体的に検討すべきと思います。奈良市で子どもを産み育てやすい環境を一日も早く構築する事が私の役目と考えています。

【地域包括ケアシステム】

今年の4月から市町村が中心となった「介護予防・日常生活支援総合事業」は、地域の実情に応じて多様なサービスを充実させ、要援護者などに対して効率的な支援をすること目指します。あわせて住民が広く参画しての地域の支えあいの体制作りを推進しています。これは支援が必要な人に介護事業者ではなく、地域の住民に生活支援を受け持ってもらおうという国の考えです。生活のごみ出しや買い物支援、身の回りの世話などが該当します。しかし、私たちの地域を見渡しても高齢化が進み、担い手となる人材確保が難しい状態です。奈良市では以前と同様に介護事業所が担っていかなければなりません。また、介護

認定3以下は特別養護老人ホームには入所できず、地域の介護施設を探すこととなります。介護事業が始まったころはゴールドプランとして大型施設の建設を進めていましたが、近年では在宅介護を唱え、今ではサービス付き高齢者向け住宅が在宅介護を担うかようになっていきました。国は、高齢者に目を向けているのではなく介護保険制度を守る事を考えているようです。

市町村が負担する総合事業にし、給付を事業費へと付け替え、単価を下げることで介護保険を守り、介護サービスは地方自治体に委ね、国民が支払ってきた介護保険料を自身が使えないまま負担が増え、お金がなくなれば介護サービスを十分に受ける事が出来なくなる方向に進むように思います。この煽りを各市町村は真正面から受けることとなります。厳しい財政の中から総合事業に対する予算も捻出しなければなりません。当初は計画通りサービスも低下させずに実施できていても近い将来(団塊の世代が75歳を迎える2025年)にはサービスを低下させずに持ちこたえるかどうかは非常に不透明です。確実に市町村によってサービスの格差がおこります。私は子供から高齢者まで安心なまちづくりを構築するよう努力していきます。

しなと幸一 事務所

奈良市学園朝日元町1-506

電話 0742-41-9814

Fax 0742-43-7212

<http://shinato.jp/>